

県営ほ場整備事業（担い手育成型）鳥屋西部地区

地区概要

- 箇所名：石川県 鹿島郡 中能登町 大槻、春木地内
- 工事内容：ほ場整備 A=60.4ha
暗渠排水 A=60.4ha
- 総事業費：1,207百万円
- 受益面積：60.4ha
- 事業期間：平成15年度～平成20年度

評価結果

ほ場整備を契機に農事組合法人2組織が設立され、大型農業機械の導入による作業効率の向上と農地集積が図られた。

また、暗渠排水により湿田が解消され、麦、カブ等を新たに作付けし、水田の汎用化が図られた。

位置図

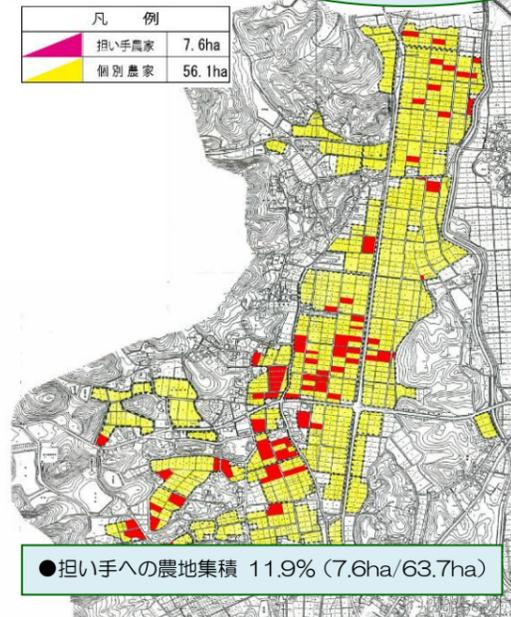


受益面積 A=60.4ha

図で見る事業効果

整備前

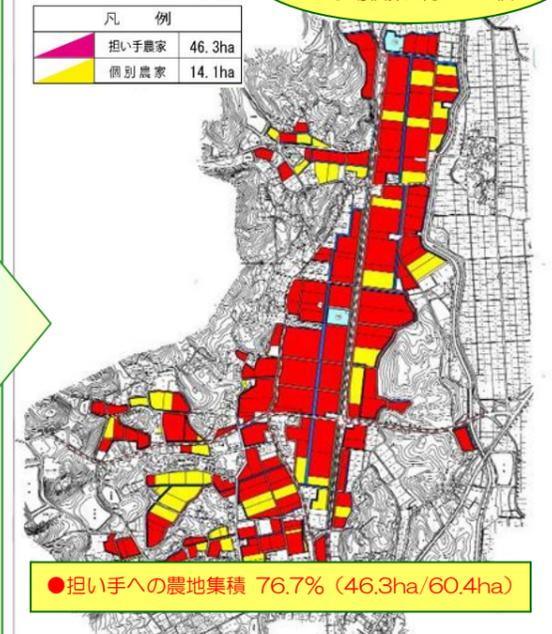
- ほ場区画：8a
- ほ場枚数：約1020枚



- 区画が小さく、大型機械が入れない
- 水はけが悪く、畑作利用が難しい
- 作付けが困難で、一部遊休農地も見られた
- 農地を貸したくても借り手がいない

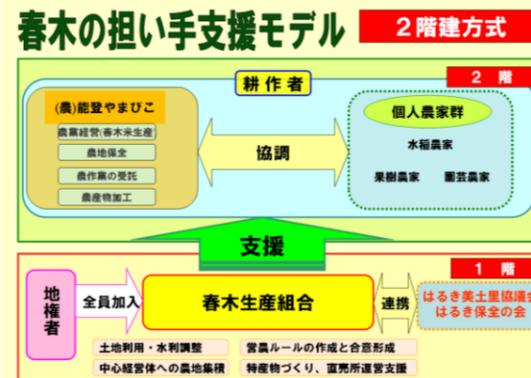
整備後

- ほ場区画：30、100a
- ほ場枚数：約190枚



- 水田の大区画化を契機とし、農事組合法人が設立され農地集積が図られた
- 暗渠排水により湿田が解消され、農作物の生産性と水田の利用率が向上した

写真等で見る本地区の地域農業



数字で見る事業効果



地元の声

アンケート調査結果
配布：115世帯 回収：70世帯(61%)
内訳：農家58世帯・非農家12世帯



ほ場整備の実施は、地域として良かったと思いますか

—良かったと思う主な理由—

- パイプライン化で、水管理がスムーズになった
- ほ場が大きくなり、大型機械の導入で作業効率があがった
- 排水路と暗渠排水の整備で田んぼが乾きやすくなった
- 耕作をお願いしやすくなった

今後の取り組み

- 個別農家の高齢化に伴う経営面積の縮小や離農が予想され、担い手への農地集積をさらに進め、併せて営農コストの低減に努める
- 関西方面へ出荷している化学肥料を3割以上減らしたエコ栽培米を増加させ、需要拡大を目指す
- 地元直売所で販売しているエコ栽培米と、カブ・中島菜加工品の販売をさらに推進し、需要拡大を図る